

# 空間自己回帰モデル の特性について

早稲田大学 力丸佑紀（発表者）  
（株）データサイエンスコンソーシアム 柴田里程

# 空間自己回帰(SAR)モデル

空間計量経済学で用いられるモデル

- 2次元空間上の  $n$  個の地域  $\mathbf{s}_i (i = 1, 2, \dots, n)$
- 観測値  $Y(\mathbf{s}_i)$  / 観測値ベクトル  $\mathbf{Y}_n$

$$\mathbf{Y}_n = \lambda \mathbf{W}_n \mathbf{Y}_n + \mathbf{X}_n \boldsymbol{\beta} + \boldsymbol{\varepsilon}_n$$

- $\mathbf{X}_n \boldsymbol{\beta}$  は回帰項
- $\boldsymbol{\varepsilon}_n$  は誤差ベクトルで  $\boldsymbol{\varepsilon}_n \sim N(\mathbf{0}, \sigma^2 \mathbf{I})$

# Lee(2004)

- 最尤法によるパラメータ推定
- 8つの条件が必要
  - ✓  $\varepsilon_n$  は  $N(\mathbf{0}, \sigma^2 I)$  にしたがう
  - ✓  $W_n$  の  $(i, j)$  成分  $w_{n,ij}$  は一様に  $O(1/h_n)$
  - ✓  $\liminf_{n \rightarrow \infty} h_n > 0$  かつ  $\lim_{n \rightarrow \infty} h_n/n = 0$
  - ✓  $S_n = I - \lambda W_n$  は正則行列
  - ✓  $W_n$  と  $S_n^{-1}$  は行和と列和に関して一様に有界
  - ✓  $X_n$  の任意の成分は  $n$  に関して一様に有界であり,  $\lim_{n \rightarrow \infty} X_n^T X_n/n$  が存在して正則行列
  - ✓  $\Lambda$  を  $R$  のコンパクト集合,  $\lambda_0$  を  $\Lambda$  の内点とする.  $\Lambda$  上で  $S_n^{-1}(\lambda)$  は  $\lambda$  および  $n$  に関して一様に行和および列和が有界
  - ✓  $\lim_{n \rightarrow \infty} (X_n, G_n X_n \beta_0)^T (X_n, G_n X_n \beta_0)/n$  が存在して, 正則行列

# どんな条件か？

- 以下の2つの場合について確かめる

1.  $W_n$  が隣接行列

- $\mathbf{s}_i$  と  $\mathbf{s}_j$  が隣り合っていれば  $w_{n,ij} = 1$ , それ以外は 0

2.  $Y(\mathbf{s}_i)$  が空間オルンシュタイン-ウーレンベック過程の場合

- $dY_t = -\theta_1 X_t dt_1 - \theta_2 X_t dt_2 + \sigma dB_t,$   
 $t_1, t_2 > 0, \theta_1 + \theta_2 > 0$
- $B_t$  は Brownian sheet

# 1. $W_n$ が隣接行列

- 地域  $s_i$  は格子点上に並んでいるとする
  - $n_1 \times n_2 = n$  の観測データ
  - $Y_n$  は座標が辞書式になるように並べる
- $X_n\boldsymbol{\beta} = 0$  の場合を考える

$$Y_n = \lambda W_n Y_n + \boldsymbol{\varepsilon}_n$$

- $W_n = \begin{pmatrix} A & I & & \\ I & \ddots & \ddots & \\ & \ddots & \ddots & I \\ & & & I & A \end{pmatrix}, \quad A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & & \\ 1 & \ddots & \ddots & \\ & \ddots & \ddots & 1 \\ & & & 1 & 0 \end{pmatrix}$

ブロック行列

# 確認すべき条件

1.  $W_n$  の  $(i, j)$  成分  $w_{n,ij}$  は一様に  $O(1/h_n)$
2.  $\liminf_{n \rightarrow \infty} h_n > 0$  かつ  $\lim_{n \rightarrow \infty} h_n/n = 0$
3.  $S_n = I - \lambda W_n$  は正則行列
4.  $W_n$  と  $S_n^{-1}$  は行和と列和に関して一様に有界
5.  $\Lambda$  を  $R$  のコンパクト集合,  $\lambda_0$  を  $\Lambda$  の内点とする.  $\Lambda$  上で  $S_n^{-1}(\lambda)$  は  $\lambda$  および  $n$  に関して一様に行和および列和が有界

# 条件 1, 2

1.  $W_n$  の  $(i, j)$  成分  $w_{n,ij}$  は一様に  $O(1/h_n)$
2.  $\liminf_{n \rightarrow \infty} h_n > 0$  かつ  $\lim_{n \rightarrow \infty} h_n/n = 0$

- $W_n$  の  $(i, j)$  成分  $w_{n,ij}$  は 0 または 1
- $h_n$  を定数にとれば条件 1, 2 は成立

# 条件 3

3.  $S_n = I - \lambda W_n$  は正則行列

■  $|S_n| = |I - \lambda W_n| \neq 0$

⇔  $1/\lambda$  は  $W_n$  の固有値ではない

■ 
$$\xi_{j_1, j_2}(W_n) = 2 \left\{ \cos \left( \frac{j_1 \pi}{n_1 + 1} \right) + \cos \left( \frac{j_2 \pi}{n_2 + 1} \right) \right\},$$
$$j_1 = 1, 2, \dots, n_1, \quad j_2 = 1, 2, \dots, n_2$$

■  $n \rightarrow \infty$  のとき  $\xi_{j_1, j_2}(W_n)$  は  $(-4, 4)$  を満遍なく埋め尽くす

■ よって,  $S_n$  の正則条件は  $|\lambda| \leq 1/4$



# 条件 4, 5

4.  $W_n$  と  $S_n^{-1}$  は行和と列和に関して一様に有界
5.  $\Lambda$  を  $R$  のコンパクト集合,  $\lambda_0$  を  $\Lambda$  の内点とする.  $\Lambda$  上で  $S_n^{-1}(\lambda)$  は  $\lambda$  および  $n$  に関して一様に行和および列和が有界

- 任意の  $n, i, j$  に対して,  $W_n$  の  $j$  列目の行和は

$$\sum_{i=1}^n |w_{n,ij}| = 2 \text{ or } 3 \text{ or } 4$$

- $W_n$  の列和は一様に有界
- 列和についても同じ

# 条件 4, 5

4.  $W_n$  と  $S_n^{-1}$  は行和と列和に関して一様に有界
5.  $\Lambda$  を  $R$  のコンパクト集合,  $\lambda_0$  を  $\Lambda$  の内点とする.  $\Lambda$  上で  $S_n^{-1}(\lambda)$  は  $\lambda$  および  $n$  に関して一様に行和および列和が有界

## ■ $S_n^{-1}$ を固有値分解

$$S_n^{-1} = UD^{-1}U^T$$

- $U$  は  $S_n$  の固有ベクトルを並べた行列
- $D$  は  $S_n$  の固有値を並べた対角行列

## ■ $j$ 列目の要素の絶対値の和は

$$\begin{aligned} \mathbf{v}^T S_n^{-1} \mathbf{e}_j &= \mathbf{v}^T U D U^T \mathbf{e}_j = \sum_{\ell} d_{\ell}^{-1} \mathbf{v}^T \mathbf{u}_{\ell} u_{j\ell} \\ &\leq \max |d_{\ell}^{-1}| \sum_{\ell} u_{j\ell}^2 = \max |d_{\ell}^{-1}| \end{aligned}$$

# 条件 4, 5

■  $S_n = I - \lambda W_n$  より

$$d_{j_1, j_2}(S_n) = 1 - 2\lambda \left\{ \cos\left(\frac{j_1\pi}{n_1 + 1}\right) + \cos\left(\frac{j_2\pi}{n_2 + 1}\right) \right\}$$

■  $|\lambda| < 1/4$  のとき,  $S_n^{-1}$  の行和が一様に有界

■ 条件 3 を満たす条件は  $|\lambda| \leq 1/4$  だった

■ 列和に関しても同じ

# 空間自己回帰(SAR)モデル

- 空間計量経済学で用いられるSARモデル

$$Y_n = \lambda W_n Y_n + \varepsilon_n$$

- $W_n$  は隣接行列
- Lee(2004)の最尤法によるパラメータ推定に必要な条件は

$$|\lambda| < 1/4$$

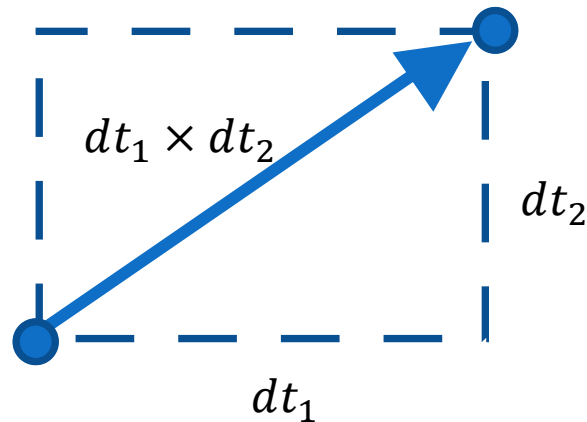
- これは弱定常性の条件と同じ条件

# $Y(\mathbf{s}_i)$ が空間O-U過程

- 地域  $\mathbf{s}_i$  は格子点上に並んでいるとする
  - $n_1 \times n_2 = n$  の観測データ
- $Y(\mathbf{s}_i)$  が空間オルンシュタイン-ウーレンベック過程の場合
  - $dY_t = -\theta_1 Y_t dt_1 - \theta_2 Y_t dt_2 + \sigma dB_t,$   
 $t_1, t_2 > 0, \theta_1 + \theta_2 > 0$
  - $B_t$  は Brownian sheet

# Brownian sheet

- John Walsh(1975)
- a finitely additive set function  $W$  defined on the Borel subsets of  $\mathbf{R}_+^2$  such that
  - $W(A)$  is a  $N(0, |A|)$  random variable
  - if  $A \cap B = \emptyset$ , then  $W(A)$  and  $W(B)$  are independent



# SARモデルへの書き換え

- $dY_t = -\theta_1 Y_t dt_1 - \theta_2 Y_t dt_2 + \sigma dB_t$  の解は

$$Y_t = \sigma B \left( \frac{e^{2\theta_1 t_1}}{2\theta_1}, \frac{e^{2\theta_2 t_2}}{2\theta_2} \right) e^{-\theta^T t}$$

- これを用いると自己回帰表現が可能

$$Y(\mathbf{t}) = e^{-\theta^T \mathbf{1}} Y(\mathbf{t} + \mathbf{1}) + \varepsilon(\mathbf{t})$$

# 微分方程式の解

- $z_t = e^{\theta^T t} y_t$  とおくと、伊藤の公式より、

$$Y_t = e^{-\theta^T t} Y_0 + \sigma \int_0^t e^{-\theta^T (t-s)} dB_s \quad (1)$$

- また、 $e^{\theta^T t} dB_t$  は  $dB \left( \frac{e^{2\theta_1 t_1}}{2\theta_1}, \frac{e^{2\theta_2 t_2}}{2\theta_2} \right)$  と同等 (2)

- どちらも独立増分であることは確か
- 分散はどちらも

$$e^{2\theta^T t} dt_1 dt_2$$

- (1)(2) を合わせると前述の解が得られる



# SAR表現の導出

- $Y(t) - e^{-\theta^T \mathbf{1}} Y(t-1)$

$$= \sigma e^{-\theta^T t} \left\{ B \left( \frac{e^{2\theta_1 t_1}}{2\theta_1}, \frac{e^{2\theta_2 t_2}}{2\theta_2} \right) - B \left( \frac{e^{2\theta_1(t_1-1)}}{2\theta_1}, \frac{e^{2\theta_2(t_2-1)}}{2\theta_2} \right) \right\}$$

- $Var \left( Y(t) - e^{-\theta^T \mathbf{1}} Y(t-1) \right)$

$$= \sigma^2 e^{-2\theta^T t} \left( \frac{e^{2\theta_1 t_1} (1 - e^{-2\theta_1})}{2\theta_1} \cdot \frac{e^{2\theta_2 t_2} (1 - e^{-2\theta_2})}{2\theta_2} \right)$$

$$= \sigma^2 \cdot \frac{1 - e^{-2\theta_1}}{2\theta_1} \cdot \frac{1 - e^{-2\theta_2}}{2\theta_2}$$

- $t_1, t_2$  によらない

# 定常性

- Brownian sheet について

$$\text{Cov}(B(\mathbf{s}), B(\mathbf{t})) = \min(s_1, t_1) \cdot \min(s_2, t_2)$$

と定義すると， $Y(\mathbf{t})$  の定常性が示せる

# $W_n$ のかたち

- 地域  $s_i$  は格子点上に並んでいるとする
  - $n_1 \times n_2 = n$  の観測データ
- $X_n\boldsymbol{\beta} = 0, \lambda = e^{-\boldsymbol{\theta}^T \mathbf{1}}$  の場合のSARモデル

$$Y_n = e^{-\boldsymbol{\theta}^T \mathbf{1}} W_n Y_n + \boldsymbol{\varepsilon}_n$$

- $W_n = \begin{pmatrix} 0 & B & & \\ & \ddots & \ddots & \\ & & \ddots & B \\ & & & 0 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 0 & 1 & & \\ & \ddots & \ddots & \\ & & \ddots & 1 \\ & & & 0 \end{pmatrix}$

# 確認すべき条件

1.  $W_n$  の  $(i, j)$  成分  $w_{n,ij}$  は一様に  $O(1/h_n)$
2.  $\liminf_{n \rightarrow \infty} h_n > 0$  かつ  $\lim_{n \rightarrow \infty} h_n/n = 0$
3.  $S_n = I - \lambda W_n$  は正則行列
4.  $W_n$  と  $S_n^{-1}$  は行和と列和に関して一様に有界
5.  $\Lambda$  を  $R$  のコンパクト集合,  $\lambda_0$  を  $\Lambda$  の内点とする.  $\Lambda$  上で  $S_n^{-1}(\lambda)$  は  $\lambda$  および  $n$  に関して一様に行和および列和が有界

# 条件の確認

- 条件 1, 2 は  $h_n$  を定数におけばよい
- $S_n$  は対角成分がすべて 1 の上三角行列なので常に  $|S_n| = 1$  で正則 (条件 3)
- $W_n$  の行和と列和は一樣に有界 (条件4)
- $S_n^{-1} = I + e^{-\theta^T \mathbf{1}} W_n$  なので,  $S_n^{-1}$  の行和または列和は 1 または  $1 + e^{-\theta^T \mathbf{1}}$  なので一樣に有界 (条件 4, 5)
- $Y(\mathbf{t})$  が空間 O-U 過程の場合, Lee(2004)の条件は常に満たされる

# Leeの条件は何を意味するか？

- $X_n\boldsymbol{\beta} = 0$  の場合には，定常性を仮定していることと同じ？？？
  - 特に  $S_n$  に関する条件…
  - 今回は  $W_n$  に関する条件はきいていない